

花粉症、がん死亡率半減

がん社会 を診る

中川 恵一

2人、女性でも2人に1人が罹患(りかん)する「国民病」ですが、花粉症も日本人の3割近くを悩ませています。

がんは全体で約6割、早期であれば9割が完治します。その点、花粉症は一度発症すると完治はまれで、長く付き合っていかなければならないやっかいな病気です。

花粉が体内に入ると、これを廃除しようと「I g E抗体」が作られます。このI g E抗体があるレベルに達すると、

ヒスタミンなどの化学物質が分泌され、くしゃみや鼻水といった症状が引き起こされます。

東京都の調査では、昭和60年前後の都内のスギ花粉症の有病率は1割程度にすぎませんでした。しかし、平成8年は2割、18年では3割程度と上昇し、平成28年では5割近くに上ります。

今のところ、私は花粉症ではありません。ただ、父親がある年から花粉症に悩まされてきたため、毎年この季節はビクビクしています。

さて、嫌われ者の花粉症にもよい点もあります。花粉症を発症していると、がんによる死亡率が約半分になるという研究結果が東大の研究グループから出ています。

論文のもとになった調査では、群馬県に住む47〜76歳の

人と持たない人、合わせて約9千人が対象になりました。8年間の調査期間中に無くなった748人の死因と花粉症との関係を調べた結果です。

花粉症をもつ人では、膵臓(すいぞう)がん、大腸がん、脳腫瘍などの発症リスクが大きく低下するという別の調査結果も出ています。花粉症が、がんを防ぐ理由は十分には解明されていませんが、アレルギー1症状を持つ人はがんに対する「免疫監視機構」が強化されている可能性があります。

私たちの体内では、年齢とともに遺伝子に傷が積み重なり、毎日たくさんのがん細胞が発生しています。しかし、免疫細胞が常にかん細胞を監視し、水際で殺してくれています。

花粉症患者の過敏な免疫はがん細胞にも敏感に反応し、殺傷力が高まっているのかもしれない。

(東京大学特任教授)

花粉症の季節がやって来ました。日本の国土の7割が森林でその18%がスギ人工林、10%がヒノキ人工林です。戦後の木材不足の時期にスギやヒノキの造林が進みました。しかし、木材の輸入自由化などによって、国内の林業は衰退。伐採されずに放置された森林から大量の花粉が飛散し、多数の国民が苦しんでいます。自業自得とも言えるかもしれないですが、なんととも残念な事態です。

がんは日本人男性の3人に



イラスト 中村 久美